

令和 5 年 6 月 4 日現在

機関番号：12601

研究種目：基盤研究(C)（一般）

研究期間：2020～2022

課題番号：20K00029

研究課題名（和文）三大一神教における中世法思想の比較哲学的・比較宗教学的考察：「超越」と「理性」

研究課題名（英文）Comparative Study on the Concept of Law in the Three Abrahamic Religions: God and Reason

研究代表者

山本 芳久 (YAMAMOTO, Yoshihisa)

東京大学・大学院総合文化研究科・教授

研究者番号：50375599

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 3,300,000円

研究成果の概要（和文）：別々に研究されることの多い西洋中世哲学、イスラーム哲学、ユダヤ哲学を同じ土俵に乗せて研究することによって、三大一神教（ユダヤ教、キリスト教、イスラーム教）相互の思想的な共通性と相違の双方を、「<超越>と<理性>」という観点から明らかにした。3年間において5冊の単著を刊行し、十分な成果をあげることができた。「<超越>と<理性>」というテーマに関する研究成果は、『超越と理性：キリスト教、イスラーム教、ユダヤ教と中世哲学』（東京大学出版会）として刊行する予定である。

研究成果の学術的意義や社会的意義

上記のように、本研究の研究成果は、『超越と理性：キリスト教、イスラーム教、ユダヤ教と中世哲学』（東京大学出版会）として刊行する予定である。西洋中世哲学、イスラーム学、ユダヤ学、比較文明論、比較法学という複数の領域の知見を有機的に結合し、個別の領域だけでは見えにくい問題を発見・解決する本研究が完成した暁には、成果を関連諸学に還元するなかで、関連諸学相互間に新たな繋がりを形成し、関連諸学のそれぞれに新たな研究の進展の刺激を与えることが予想される。

研究成果の概要（英文）：The originality of this study is found in the fact that western medieval philosophy, Islamic philosophy and Jewish philosophy are investigated in their mutual relationship. Both the similarity and difference between the thought of the Christian World, Islamic World and Jewish World are made clear by the comparative study of the concept of law in Thomas Aquinas, Ibn Rusd and Moses Maimonides. The research result of the study will be published as God and Reason: Medieval Philosophy in Christianity, Islam and Judaism.

研究分野：哲学

キーワード：西洋中世哲学 イスラーム哲学 ユダヤ哲学 超越 理性 自然法 トマス・アキナス マイモニデス

科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属します。

1. 研究開始当初の背景

研究代表者(山本芳久)の最も中心的な専門領域は、トマス・アクィナスを中心とする西洋中世哲学である。これまでに、トマスについて複数の単著を執筆するとともに、トマスに影響を与えたイスラーム世界の哲学者であるイブン・ルシュド、イブン・シーナ、ガザーリー、ユダヤ世界の哲学者であるモーセス・マイモニデスについての研究を進めてきた。トマスをより深く理解するために始めたイスラーム思想・ユダヤ思想の研究は、次第にトマス研究の枠を超え、三大一神教の法思想の比較哲学的考察という独自のテーマの探求へと発展してきた。

三大一神教の思想的交流や比較哲学に関する研究は、我が国においては、その必要性は様々な分野の研究者によって自覚されているが、いまだ本格的な研究はほとんど行われていない。世界的に見ても、研究の大半は、キリスト教とイスラーム教の比較、イスラーム教とユダヤ教の比較、キリスト教とユダヤ教の比較といった二宗教間の比較に関わるものが大半である。このような研究状況を背景としつつ、山本は、三大一神教における中世哲学の代表者であるトマス・アクィナス(キリスト教)、イブン・ルシュド(イスラーム教)、モーセス・マイモニデス(ユダヤ教)における法思想についての研究を進め、そのすべてについて論文を発表してきた。

トマス、イブン・ルシュド、マイモニデスのそれぞれの法思想についての先行研究は枚挙にいとまがないほどあるが、二者の比較となると数えるほどになり、三者のテキストを原語で本格的に読解して比較思想的に考察したものとすると皆無に近い。それは単なる偶然ではなく、哲学、神学、法哲学、イスラーム法学、ユダヤ法学といった複数の学問領域に関わる基本的な素養を身につけたうえで一つの学問的知見にまとめ上げることの困難さが背景にある。

このような状況のなかで、三十年ほどの年数を費やしながら身につけてきたラテン語、ギリシア語、ヘブライ語、アラビア語の読解能力と、上記の様々な学問領域に関する知見に基づきつつ、「<超越>と<理性>」という観点からの中世法思想の比較研究に着手した。

2. 研究の目的

本研究の目的は、別々に研究されることの多い西洋中世哲学、イスラーム哲学、ユダヤ哲学を同じ土俵に乗せ、以下のような三つの成果を得ることである。第一は、思想史研究における空白部分を埋め、古代哲学からイスラーム哲学・ユダヤ哲学を経てラテン・キリスト教世界に至る哲学史の多角的な再検討を行なうという基礎的研究の遂行である。第二に、法の哲学的根拠づけという哲学の根本問題の一つに関して、比較哲学的観点から取り組む。第三に、現代の焦眉の課題である文明間対話に関して、西洋近代的な観点からのみ取り組むのではなく、共通の地平の中で文明を形成していたとも言える中世哲学の時代に着目することによって、三文明間の連続性と非連続性の詳細を明らかにし、新たな対話の可能性を見出す。このような大きなテーマに対して、「<超越>と<理性>」という観点から具体的な成果をあげていくことが本研究の目的である。

3. 研究の方法

原典・原語に基づいて複数の古典を精読しつつ、代表的な二次文献を批判的に検討しながら、独自の「読み」を確立し、それに基づいた比較思想的考察を遂行する、というのが、本研究の基本的な方法である。

また、「法思想」という一神教思想の一分野に焦点を絞ることを通じて三大一神教の思想構造全体の基盤を比較思想的に浮き彫りにしようとするところに、本研究の方法論的な特徴が見出される。なぜ法思想に着目するのかと言えば、三大一神教において、それぞれの宗教の創設者(モーセ、イエス、ムハンマド)は、「立法者」であったからである。彼らの立法した「法」は、宗教によって正当化されるような法ではなく、むしろ、それらの宗教を創設するような法であった。それゆえ、「法」概念の比較は、一神教の部分的構成要素の比較に留まるものではなく、それぞれの一神教の基本的な存立構造の比較にほかならないものとなる。法の存立構造の比較は、そのまま、三宗教の比較宗教学的・比較哲学的考察に直結していくのである。

4. 研究成果

本研究を特徴づける多分野横断的な内容に対応する多様な研究業績を刊行することができた。具体的には、三大一神教の中世思想全体の基盤となるアリストテレス哲学に関わるものとして『アリストテレス『ニコマコス倫理学』』(NHK出版、2022年)を刊行し、キリスト教思想に関わるものとして『キリスト教の核心をよむ』(NHK出版、2021年)および『「愛」の思想史』(NHK出版、2022年)を刊行した。また、最新の西洋哲学史の書籍である共著『新しく学ぶ西洋哲学史』(ミネルヴァ書房、2022年)を刊行し、千年に及ぶ西洋中世哲学の全体の流れを捉え直した。更に、本研究の中心軸となるトマス・アクィナスの哲学に関して、『世界は善に満ちている：ト

マス・アキナス哲学講義』(新潮選書、2021年)を刊行した。また、一神教の神学が現代世界において持ちうるアクチュアルな意味について、若松英輔氏との共著『危機の神学』(文春新書、2022年)において考察した。

これらの成果をも踏まえつつ、研究の集大成として、『超越と理性: キリスト教、イスラム教、ユダヤ教と中世哲学』(東京大学出版会)の刊行の準備を進めている。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計6件（うち査読付論文 0件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 0件）

1. 著者名 若松 英輔, 山本 芳久	4. 巻 75 (1)
2. 論文標題 対談 危機の哲学	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 文学界	6. 最初と最後の頁 160-180
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 若松 英輔, 山本 芳久	4. 巻 74 (8)
2. 論文標題 危機の神学	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 文学界	6. 最初と最後の頁 186-198
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 山本 芳久	4. 巻 42
2. 論文標題 トマス・アクィナスにおける恩寵と自由意志	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 現代と親鸞	6. 最初と最後の頁 69-115
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 山本 芳久, 岩谷 菜都美	4. 巻 529
2. 論文標題 著者に聞く キリスト教の核心をよむ 人が独りているのは良くない	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 Voice	6. 最初と最後の頁 230-233
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 山本芳久	4. 巻 95
2. 論文標題 「無関心なエゴイズムというウイルス」との戦い[教皇フランシスコ『回勅 ラウダート・シ：ともに暮らす家を大切に』瀬本正之・吉川まみ訳 他]	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 アステイオン	6. 最初と最後の頁 202-207
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 若松 英輔, 山本 芳久	4. 巻 75 (9)
2. 論文標題 対談 神学者がとらえたコロナ危機	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 文學界	6. 最初と最後の頁 158-185
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計0件

〔図書〕 計6件

1. 著者名 山本 芳久	4. 発行年 2022年
2. 出版社 NHK出版	5. 総ページ数 240
3. 書名 宗教のきほん 「愛」の思想史	

1. 著者名 山本 芳久	4. 発行年 2022年
2. 出版社 NHK出版	5. 総ページ数 116
3. 書名 アリストテレス『ニコマコス倫理学』 2022年5月	

1. 著者名 荻野 弘之、山本 芳久、大橋 容一郎、本郷 均、乗立 雄輝	4. 発行年 2022年
2. 出版社 ミネルヴァ書房	5. 総ページ数 400
3. 書名 新しく学ぶ西洋哲学史	

1. 著者名 山本 芳久	4. 発行年 2021年
2. 出版社 NHK出版	5. 総ページ数 128
3. 書名 NHK出版 学びのきほん キリスト教の核心をよむ	

1. 著者名 若松 英輔、山本 芳久	4. 発行年 2021年
2. 出版社 文藝春秋	5. 総ページ数 288
3. 書名 危機の神学 「無関心というパンデミック」を超えて	

1. 著者名 山本 芳久	4. 発行年 2021年
2. 出版社 新潮社	5. 総ページ数 320
3. 書名 世界は善に満ちている	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
---------------------------	-----------------------	----

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------